

家保通信

Vol. 37 No. 4 7月号
東京都家畜保健衛生所



令和5年6月27日

かほクイス

令和4年次の牛のヨーネ病のおよその発生件数は？

- ①100件
- ②500件
- ③1000件

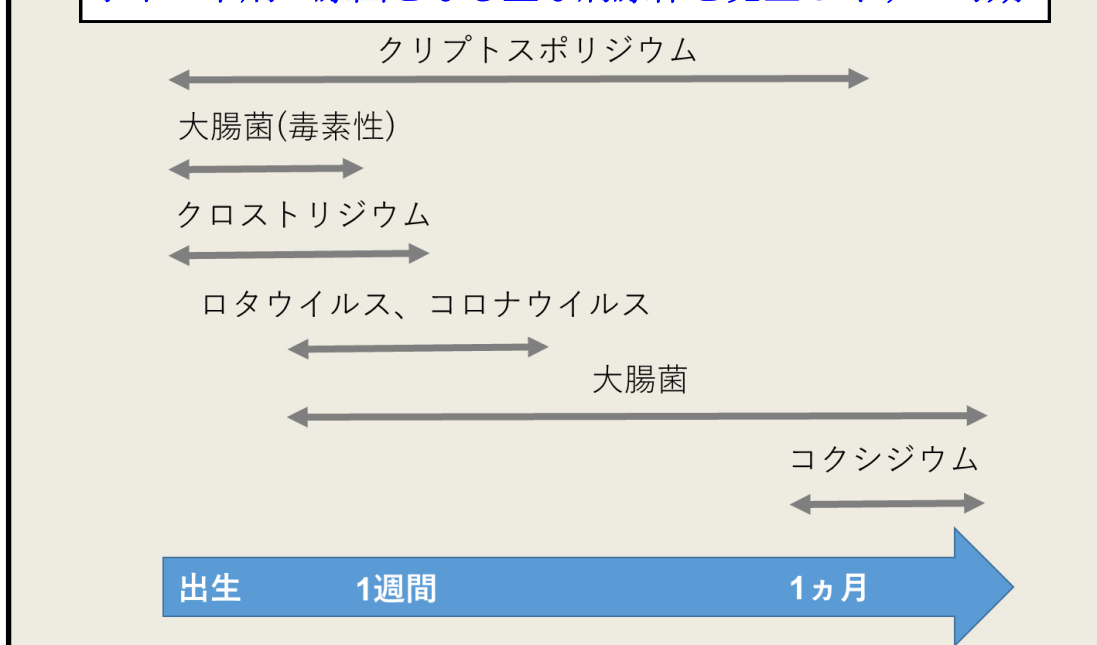
答えは裏面



子牛の下痢に気を付けましょう

本年4月、都内でロタウイルス(A群)による子牛(10日齢)の下痢が発生しました。子牛は消化管の発達が未熟で、消化・吸収が不安定です。また、免疫機能が未熟で、病原体に容易に感染・発症します。そのため子牛の下痢は、感染性でないものも含め、多く見られる疾病の1つです。以下の対策を行い、下痢の予防に努めましょう。また、症状が重篤な場合、脱水により死に至ることもあるため、早めに獣医師の診療を受けるようにしましょう。

子牛の下痢の原因となる主な病原体と発生しやすい時期



～子牛の下痢対策～

①健康的な子牛の管理

- ・移行抗体による感染防御のため、初乳は十分に飲ませましょう。
- ・十分な敷料の確保、換気、適切な温度管理等を行いましょ。
- ・子牛の飼養場所や飼養器具を定期的に洗浄・消毒しましょ。

②農場内への病原体の侵入防止

- ・農場に出入りする人・車両の消毒、専用の服・靴の着用等、飼養衛生管理基準を遵守し、病原体の侵入を防ぎましょ。

③農場内の病原体の拡散防止

- ・下痢が発生した場合は、洗浄・消毒、発症牛の隔離、世話の順番を最後にする等、感染が広がらないようにしましょ。

④ワクチン接種

- ・ロタウイルス、コロナウイルス、大腸菌に対しては、ワクチンがあります。分娩前の母牛にワクチンを接種し、初乳からの移行抗体により子牛の下痢を予防する方法も検討しましょ。



都内でヨーネ病が発生！

本年6月、**都内で山羊のヨーネ病が発生**しました。ヨーネ病は、ヨーネ菌に汚染された糞便、乳、餌等を経口摂取することで感染する反芻獣（牛、山羊、羊、鹿、水牛等）の疾病です。牛の主な症状は、慢性の下痢、消瘦、乳量低下です。ヨーネ菌に感染した牛は糞便中に排菌し、周りの牛への感染源となります。感染してから発症するまでの潜伏期間が6か月～数年と長く、発症前から糞便中に排菌するため、発症に気付いた時には、既に農場内に菌が広がっている可能性があります。また、子牛は成牛に比べ、ヨーネ菌に対する感受性が高いため、子牛に感染させないことが重要です。

画像引用元：（独）農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所



○発生予防対策

- ①子牛はできるだけ早く成牛から隔離しましょう。
- ②糞便の堆肥化は、切り返し等を十分に行い、完全に熟成させましょう。
- ③牛舎内（特に分娩牛房、牛床、飼槽、ウォーターカップ）は清潔に保ちましょう。
- ④牛を導入する時は、清浄農場から導入しましょう。**

ヨーネ菌の農場への侵入は、**ヨーネ菌に感染した牛の導入によるものが多い**と考えられます。牛を導入する時は、その農場がカテゴリーⅠの証明を受けていることを確認し、清浄な農場から導入するようにしましょう。また、都外から導入する場合は速やかに当所に連絡し、**導入牛の検査を受けてください。**

※カテゴリー証明について


カテゴリーⅠ：ヨーネ病の清浄化が確認されている農場

カテゴリーⅡ：ヨーネ病の発生があり、対策を実施中の農場

クイズの答え ② 令和4年次は、全国で519件1147頭でヨーネ病の発生がありました。うち431件997頭は北海道での発生となっています。千葉県や神奈川県など、関東圏でも発生がありました。近年は、約500頭～1000頭が毎年摘発されており、法定伝染病のなかで最も発生が多い疾病となっています。治療方法やワクチンはないため、定期的な検査による感染牛の早期摘発・とう汰が重要です。

慢性的な下痢が続くなど、ヨーネ病を疑う症状があった場合には、速やかに当所までご連絡をお願いします。

発行日 令和5年6月27日

編集発行  東京都家畜保健衛生所

<http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/nourin/shoku/animal/kaho/>

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町
大字平井2759

TEL :042-588-7171

携帯：090-6941-4315(緊急用)

